



茨本市東奈良二丁目一七一〜一二  
チエリーアベニューA一〇一号  
**岩本 峯 奇**  
電話〇七二一六三七一四四七一

制作活動が一段落した二十年ほど前のある日の夕暮れ時のこと。昔、家族で疎開した思い出を辿って、能勢の山歩きをしている私の目の前に一羽の鳥が飛んできました。まるで、そこで休も

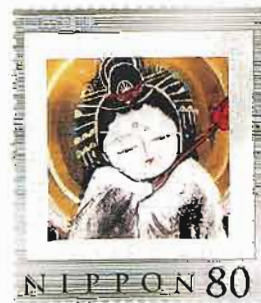
うとも思っているかのように、私のすぐ近くの枝に止まったのです。驚き、よく観ると「ふくろう」でした。丸い目でじつと私を見るふくろう。その可愛らしさに思わず笑みがこぼれたのを、つい昨日のことのように思い出します。

その数日後、制作依頼がきた時、ふくろうとの出会いを、ふと思いついたのも何かのご縁だったのでしようか。その温かさ、優しさを表現したい、あのふくろうが羽を休めようとしたように、観てくださった方が、心を休めていただければ…と祈りを込めて描いたところ、大変喜んでいただき、いっしょに私の制作活動という名の木の枝に、じつと止まっています。

ふくろうに加えて、円相は心の中の宇宙ととらえ、私の作品制作の基本としています。画家として独り立ちするまでの人生。嘆き、苦しみ、時には自分自身の、またある時は周囲の人々の喜び、悲しみを目の当たりにしてきました。だからこそ全てを包む宇宙、慈しむ観音様や地藏様などに加え、心を癒すであろう言葉を添え、豊かな愛に満ちた世界を願い、制作しています。たくさんのご縁により、今ある自分を感じつつ…

合掌

協賛 北摂労務コンサルタント事務所



岩本峯奇 略歴

一九三九年大阪市生まれ。人物画家の母の影響を受け、幼少時より絵を描くことが得意であった。日本写真映像学院芸術科在学中より個展を開くほどになったが、卒業と同時にアートディレクターとして勤務。その後、建築設計事務所を開くなどをしながら創作活動に励む。公募展入選等多数。

現在の墨象画の世界を確立したのは、一九七〇年（昭和四十五年）三十歳の時であった。一九八八年（平成元年）紆余曲折を経て画業に専心。現在は、授産所においてのチャリティー絵画展や社会福祉活動を続けながら三越百貨店・阪急百貨店・松坂屋百貨店他の全国各地有名百貨店・画廊・高知県の町紙の博物館などで絵画展を開き、土佐和紙・出雲和紙に描くなど独自の世界を広げ、その癒しの作品で多くの人に安らぎを与え続けている。

